

1 やまぐち教育応援団

(教育政策課)

1 「やまぐち教育応援団」とは

社会全体による教育、人材育成を推進するため、子どもの教育活動を支援する県内の事業所や団体を登録・認証し、子どもの様々なキャリア教育、体験・学習活動の充実・活性化を図るため、「やまぐち教育応援団」制度を設置し、平成20年10月1日から運用を開始した。

平成23年4月1日から、学校を支援する仕組みをさらに充実させるため、学校サポートバンクと一本化し、地域人材等の登録を可能にした。団員は、5,018事業所等(平成30年1月末現在)である。

2 制度の概要

(1) 団員の登録等

「やまぐち教育応援団」の趣旨に賛同し、申請を行った事業所等を団員として登録する。登録期間は3年間とし、以後は自動更新する。ただし、次に掲げる事業所等は対象外とする。

- 法令等の規定により子ども、若者等の立入りが規制されている事業所等
- 宗教又は政治活動を主たる目的とした事業所等
- 暴力団又は暴力団員の統制の下にある事業所等
- その他「やまぐち教育応援団」としてふさわしくないと認められる事業所等

また、団員に登録されると、次のような特典がある。

- 事業所等の活動において、「やまぐち教育応援団」の名称及びロゴの使用ができる。
- 団員の事業所等情報、活動分野と具体的な活動内容、事業所等の特色等を「やまぐち教育応援団」のウェブサイト(<http://shien.ysn21.jp/ouendan/>)に掲載し、県民に紹介できる。
- 団員が開催する事業所等内での教育関連講座への講師派遣を教育委員会事務局に要請することができる。
- 政策課題を評価項目とする入札参加者指名制度への登録が可能となる。

「やまぐち教育応援団」のロゴ「ええるくん」

- ・ 公募審査を経て現在のロゴを決定
(平成20年7月15日)

- ・ 愛称の由来

「やまぐち教育応援団」に登録した県内事業所の支援を受けて、子どもたちが元気に、未来に向けて育ててほしいという願いを込めて、エールを送るの「ええる」と山口弁のいいという意味の「ええ」から命名



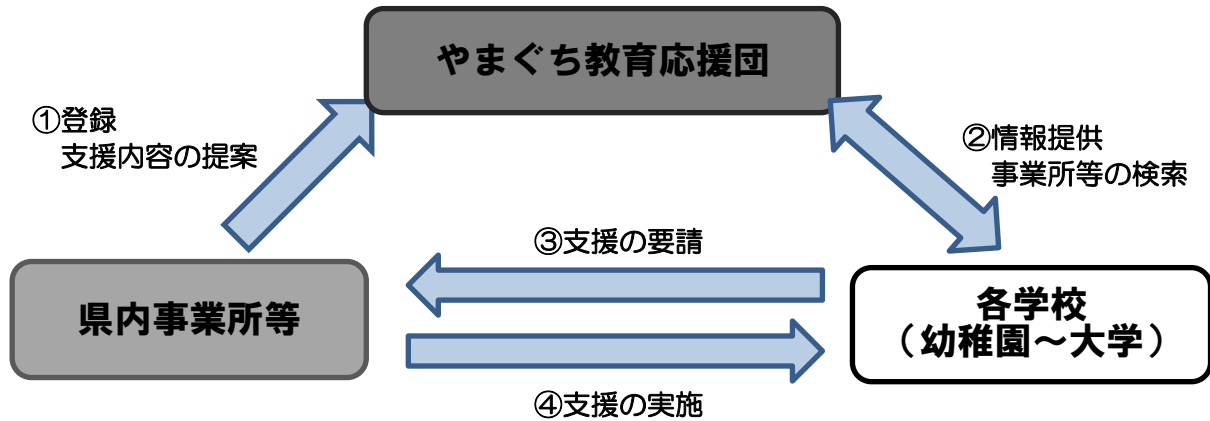
(2) 団員の活動内容等

学校等は、事務局がウェブサイトにおいて提供する団員の支援活動情報を参考に、団員へ支援活動の依頼を行い、団員はその依頼に基づいて支援活動を行う。活動の内容は、以下のとおりである。

- 子ども、保護者等を対象とした体験イベント、学習講座等の開催
- 子どもの職場見学、就業体験等の受入れ
- 学校等への講師・指導者の派遣
- 教員研修への講師の派遣や企業研修・体験での教員の受入れ
- 学校等の教育活動に対する福祉施設の開放等、事業所等が協力可能な教育活動への支援

ただし、支援活動に関する具体的な内容、教材費等の必要経費、事故等による責任の所在等は、支援活動の依頼者である学校等と団員間の二者で取り決める。

(3) 制度活用の流れ



(4) 活用状況

平成 29 年度 (H30.1 月末現在) に、「やまぐち教育応援団」を職場見学や講師招へいなど何らかの形で活用した学校の割合は、92.9%である。

その内容別の内訳は以下のとおりである。

- 登録事業所を職場見学や就業体験の場として活用 80.0%
- 登録事業所等での学習 50.8%
- 異校種間の連携 18.6%
- 登録事業所や地域人材等を講師や指導者として招へい 62.9%
- 登録している地域人材等を実技や部活等の補助的な指導者として活用 15.7%
- その他の活用 12.7%



総合的な学習の時間における
林業体験学習の様子

学校種	登録事業所を職場見学や就業体験等の場として活用			登録事業所や地域人材等を講師や指導者として招へい	地域人材等を実技や部活等の補助的な指導者として活用	その他の活用	「やまぐち教育応援団」を活用した学校の割合		
	職場見学 就業体験	事業所等 での学習	異校種間 の連携				H29	参 考	
								H28	H27
小学校	73.8%	57.9%	18.3%	69.3%	17.2%	15.2%	90.7%	92.2%	91.7%
中学校	92.5%	38.4%	21.2%	46.6%	12.3%	7.5%	95.2%	90.6%	93.5%
高等学校	77.0%	44.3%	18.0%	73.8%	19.7%	14.8%	96.7%	95.1%	98.4%
特別支援学校	92.3%	61.5%	0%	53.8%	0%	7.7%	100.0%	100.0%	100.0%
計	80.0%	50.8%	18.6%	62.9%	15.7%	12.7%	92.9%	92.3%	93.2%

(平成 30 年 1 月 教育政策課調べ)

3 成果と課題

- 県内の全ての小・中学校にコミュニティ・スクールが導入されたことにより、「やまぐち教育応援団」を活用した学校の割合も9割を上回る高い水準で推移しており、学校と地域が連携したキャリア教育や体験活動が推進されている。
- 団員の数が充実したことにより、学校のニーズに応じた幅広い支援及び地域に密着した教育活動を行うことが可能になっている。
- 今後は、「やまぐち教育応援団」を活用した各学校の取組が一層充実するよう、引き続き、コーディネーター等に対する制度の周知及び研修会等における好事例の紹介等が必要である。また、各学校のニーズに応じて「やまぐち教育応援団」が活用できるよう、新規登録を更に進めていくことが大切である。

2 山口県高校生ボランティアバンク

(高校教育課)

1 趣旨

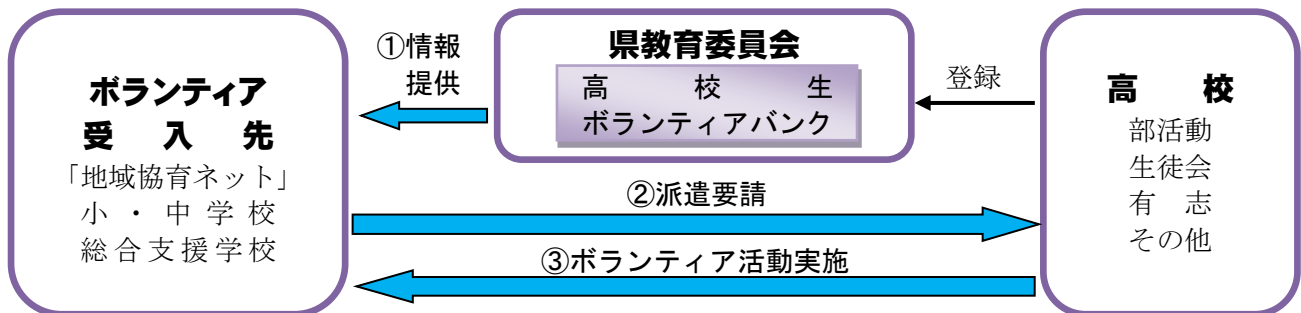
東日本大震災をきっかけに人と人の絆が改めて見直され、多様な他者とのつながりや支え合いの構築が重要視される中、他者を思いやり、共感したり感動したりする心や態度、社会に貢献しようとする態度などを育むことが、これまで以上に求められている。

こうした中、ボランティア活動は、高校生が社会の一員であることを自覚し、互いが支え合う社会の仕組みを考える上で意義があると同時に、自己のよさや可能性を見出し、自分自身を高める上でも大きな教育的効果がある。

このため、県教育委員会が高校生とボランティアの受入先とをつなぐ「高校生ボランティアバンク」を設置し、地域における高校生のボランティア活動の活性化を図ることで、高校生の社会貢献や社会参加を促す。

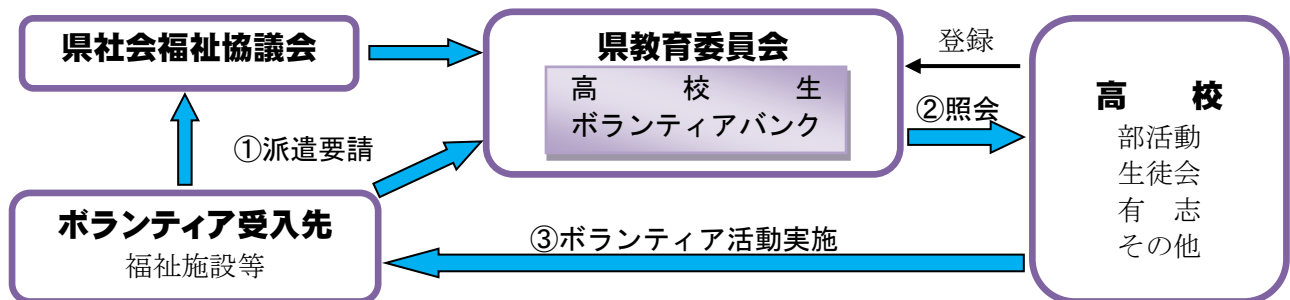
2 高校生ボランティア派遣の流れ

【「地域協育ネット」及び学校におけるボランティアの場合】



- ① 県教育委員会は、「ボランティアバンク」に登録している高校を高校教育課のHPに掲載し、情報を提供する。
- ② 「地域協育ネット」、小・中学校、総合支援学校は、高校教育課のHPに掲載されている登録高校の一覧表を見て、ボランティア活動日の1か月前までに、高校へ直接、ボランティアの派遣を要請する。
- ③ 高校と受入先で事前打合せを行った上で、ボランティア活動を実施する。

【社会福祉協議会を通じたボランティアの場合】



- ① 福祉施設等の受入先は、ボランティア活動日の1か月前までに、県社会福祉協議会又は県教育委員会高校教育課に、高校生ボランティアの派遣を要請する。
- ② 県教育委員会が高校に照会し、マッチングを行う。
- ③ 高校と受入先で事前打合せを行った上で、ボランティア活動を実施する。

3 活動内容例

- 「地域協育ネット」に所属する各種団体が主催する行事への参加
- 学校の教育活動や地域で行う活動への支援
- 福祉施設における介助補助、清掃、レクリエーション
- 社会福祉協議会が実施しているボランティア活動への参加
- 公共施設や地域での清掃ボランティア

4 活動の様子（平成29年度の主な活動例）

- 県児童センター主催のイベントで、参加した幼児・児童の各種遊びのサポートや、イベント運営の補助を行った。



交通安全教室でのボランティア

5 登録状況（平成30年1月末現在）

高等学校	登録人数	高等学校	登録人数
周防大島高等学校	73名	宇部商業高等学校	53名
岩国高等学校坂上分校	28名	宇部工業高等学校	2名
岩国高等学校広瀬分校	18名	小野田高等学校	3名
岩国総合高等学校	30名	美祢青嶺高等学校	3名
高森高等学校	14名	西市高等学校	8名
光丘高等学校	3名	下関中央工業高等学校	13名
熊毛北高等学校	2名	下関工科高等学校	6名
徳山高等学校鹿野分校	8名	響高等学校	216名
新南陽高等学校	33名	豊北高等学校	128名
徳山商工高等学校	5名	大津緑洋高等学校大津校舎	56名
山口高等学校	15名	萩高等学校奈古分校	4名
山口中央高等学校	26名	下関中等教育学校	6名
西京高等学校	50名	高川学園高等学校	60名
山口農業高等学校	37名	野田学園高等学校	48名
宇部高等学校	5名	宇部鴻城高等学校	45名
宇部中央高等学校	21名	宇部ボランティア大学付属香川高等学校	31名
宇部西高等学校	458名	サビエル高等学校	2名

計 1,510名

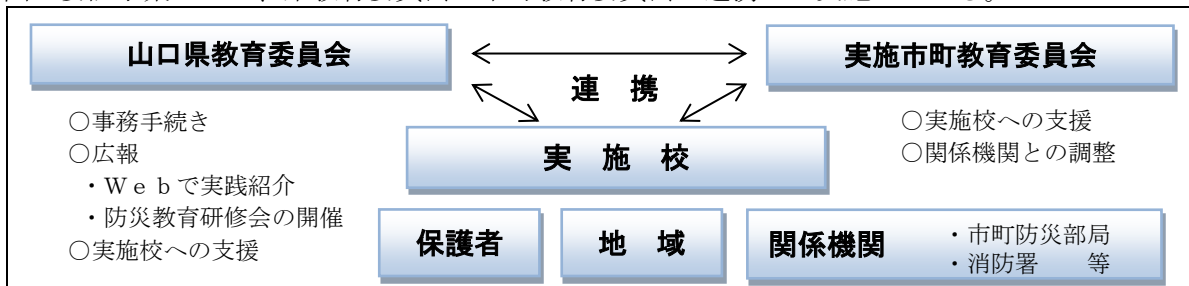
(学校安全・体育課)

1 趣旨

大規模災害の発生に備え、学校・保護者・地域・関係機関が地域ぐるみで連携し、防災管理面についての意識や能力を一層強化するとともに、児童生徒が災害発生時において、正しい知識をもとに的確に状況を判断し、自ら安全に行動することはもとより、他の人や社会に貢献できる心と実践力の育成を図る。

2 実施体制

国の委託事業として、県教育委員会と市町教育委員会が連携して実施している。



3 実施状況

【和木町】地域ぐるみの防災キャンプ (H29. 8. 1~8. 2)

- ①実施場所：和木中学校多目的スペース
- ②参加者：和木小学校児童・和木中学校生徒 42 人、関係学校教職員 15 人
地域住民（保護者含む）8 人、町企画総務課危機管理担当 1 人、町都市建設課 2 人
町教育委員会 4 人、県教育委員会 1 人

③プログラム

	13:00	13:20	14:00	14:30	15:15	16:00	17:00	18:15	19:00	19:30	21:30	
開 会 行 事	【学習①】 避難訓練	【学習②】 避難者受付	【学習③】 [給水訓練] 町都市建設課 ・給水車出動	【学習④】 [講話] 町企画総務課	【学習⑤】 [実習] 日本赤十字社 ・災害時非常持出用品 ・応急処置訓練	【学習⑥】 [実習] 保健体育科教員 ・着衣泳体験	【学習⑦】 [グループワーク] ・避難所生活 ルールづくり	夕 食	【学習⑧】 [実習] ・寝床づくり ・振り返り		就 寝	
	6:30	7:00	7:30	8:00	9:00	10:30	11:00	11:30				
起 床	朝 食	清掃 ・ 片づけ	【学習⑨】 [実習] 岩国消防署東出張所 ・心肺蘇生訓練 ・ロープワーク	【学習⑩】 [講話] 県学校防災アドバイザー	【学習⑪】 [実習] NTT西日本 ・災害伝言ダイヤル体験	振 熟 り 返 り 議	閉 引 会 き 行 渡 事 し					

④児童生徒の感想

地区の防災倉庫を見学することで、備蓄の必要性について再認識することができました。



寝床づくりを体験することで、プライバシーを確保することの大切さを学ぶことができました。



【萩市】地域ぐるみの防災キャンプ (H29. 8. 4~8. 5)

- ①実施場所：三見小中学校体育館
- ②参加者：三見小中学校児童生徒 50 人、関係学校教職員 14 人、関係保護者 12 人、地域住民 30 人、市総務課防災危機管理室 3 人、三見消防団 20 人、三見公民館 3 人
市教育委員会 5 人、県教育委員会 1 人

③プログラム

14:00	14:30	15:40	17:30	18:30	19:15	20:10	21:30
訓練津波発生	開会行事	【学習①】 [講話・実習] 防災マネージャー 萩市教育委員会 ・避難所開設時のルールづくり	【学習②】 [実習] 防災マネージャー 防災危機管理課 ・段ボールベッドづくり	【学習③】 [実習] 公民館・消防団 三見小中学校 ・備蓄食体験 ・消防団放水見学	【学習④】 [熟議] 公民館 萩市教委 ・一日の活動を振り返って	【学習⑤】 [講話] 県学校防災アドバイザー ・津波災害について ・避難所で生活するうえでの苦労など	就寝準備 就寝
6:00	6:30	7:40	8:40	9:50	10:20	10:30	
起床	ラ朝 ジ オ 体 操 食	清掃・片づけ	【学習⑥】 [講習] 萩市社会福祉協議会 三見小中学校 ・災害時、子どもたちにできること、その役割	アンケ ー ト 返 記 入	振 返 り	閉 行 事	解 散

④児童生徒の感想

避難所運営等について地域の方と熟議を行ったことで、防災意識を高めることができました。



ボランティアセンターの仕組み等を学ぶことで、自分ができることについて考えることができました。



【周南市】地域ぐるみの防災キャンプ (H29. 8. 26~8. 27)

- ①実施場所：福川中学校体育館
 ②参加者：福川小学校児童・福川南小学校児童・福川中学校生徒 87人、関係学校教職員 14人、関係保護者 45人、地域住民 60人、日本赤十字社 3人、市防災危機管理課 3人、市消防本部 3人、市上下水道局 4人、市教育委員会 1人、県教育委員会 1人

③プログラム

13:10	13:40	15:40	16:30	17:20	18:15	20:15	21:00	21:40	
開会行事	【学習①】 [グループワーク] 日本赤十字社 ・講演 ・熟議	【学習②】 [給水体験] 上下水道局 ・給水	【学習③】 炊き出し 訓練 (夕食)	【学習④】 [防災グッズ製作] 木工作家 ・箸づくり	シヤ ワ ー	寝 床 づ く り	【学習⑤】 [講話] 県学校防災 アドバイザー ・災害の実態	【学習⑥】 ランタン 探検	振 返 り 就 寝 準 備
6:00	6:30	7:30	9:00	9:30	11:00	11:20			
健康観察	ラジ オ 体 操	寝 床 の 片 づ け	朝 食	朝 礼	【学習⑦】 [防災訓練] 市消防本部 ・心肺蘇生法 ・消火訓練	振 返 り	閉 行 事	引 き 渡 し 訓 練	

④児童生徒の感想

地域の方がつくられたカレーをいただいたことで、地域の団結力や温かさを感じることができました。



給水体験をすることで、水の必要性や大切さを再確認することができました。



4 成果と課題

地域の方と避難所生活についての熟議を行ったり、地区防災士の方から地域で起こり得る災害等についてのお話を聞いたりするなかで、地域防災について深く考えることができた。また、避難所の受付等を実際に体験することで、災害発生時の実践力を向上させることができた。

現在、「やまぐち型地域連携教育」の推進により、地域ぐるみの防災教育が実施されており、今後の取組拡充に向け、研修会等で取組の成果等を周知していきたいと考える。

4 地域スポーツ人材の派遣

(学校安全・体育課)

1 趣 旨

体育及び運動・スポーツがもっている特性に応じた楽しさを体験し、より運動・スポーツに親しむきっかけとして、学校体育的活動において、地域のスポーツ指導者を派遣し児童生徒に専門的指導を行うことで、児童生徒の望ましい運動習慣の形成及び体力向上、教員の指導力の向上に資する。

2 実施状況

平成21年度から、国の委託事業として実施している。



中学校保健体育科授業における地域のスポーツ指導者による剣道の指導

3 県教委の取組

(1) 体育・保健体育科授業への派遣

武道・ダンスや課題がみられる領域において、優れた指導力を有する地域のスポーツ指導者を活用し、教員との役割分担を明確にした効果的な指導を行うことで、安全かつ充実した授業の展開と教員の指導力向上を目的としている。

武道・ダンスについては、平成24年度から中学校保健体育科において必修となり、武道関係団体等と協議の上、地域の武道各種目の有段者を対象とした「指導協力者リスト」を作成し、派遣を可能とした。その後、本県では柔道を実施する学校の割合が8割を超えることから、柔道の指導者リストについては、継続して活用しながら、他の領域については、学校からの要請があった場合、各団体と連携し、地域のスポーツ指導者を派遣する仕組みとした。

課題がみられる領域については、平成27年度から、それまでに実施していた水泳領域への派遣に加え、すべての校種の体育・保健体育科授業を対象として、武道及びダンス以外の領域についても、地域のスポーツ指導者を派遣することとした。

今後も引き続き、各市町教育委員会と連携し、指導経験の少ない教員及び指導に不安を抱えている教員についての状況把握に努め、各学校のニーズに対応した派遣を実施し、より運動・スポーツに親しむことができる安全かつ充実した体育・保健体育科授業の実現に向け、取組を推進していく。

【H29 実施内容と学校数】

※平成30年1月末時点（予定も含む）

小学校：水泳 62 校

中学校：武道 7 校（柔道 1 校、剣道 5 校、相撲 7 校）、ダンス 5 校

(2) 中・高等学校運動部活動への派遣

中・高等学校における運動部活動に対して、専門的な技術指導力を有する地域のスポーツ指導者やスポーツ医・科学的知見を有するトレーナー等を派遣することにより、多様化する生徒のニーズへの対応、複数の指導者による安全かつ充実した指導の充実、部活動顧問の負担軽減、スポーツ障害の予防など、地域社会と連携した部活動の活性化を図ることを目的としている。

今年度の実施内容と学校数は、以下のとおりである。

【H29実施内容と学校数】

※平成30年1月末時点（予定も含む）

中学校：

バスケットボール 4 校、ソフトテニス 4 校、剣道 4 校、バドミントン 3 校、軟式野球 2 校、サッカー 2 校、バレーボール 1 校、卓球 1 校、陸上競技 1 校、テニス 1 校

高等学校：

バスケットボール 8 校、サッカー 8 校、軟式野球 5 校、弓道 5 校、バレーボール 3 校、ソフトテニス 3 校、ハンドボール 2 校、剣道 2 校、卓球 2 校、陸上競技 2 校、ラグビー 2 校、バドミントン 1 校、テニス 1 校、柔道 1 校、レスリング 1 校

(3) 実施状況

※平成30年1月末時点（予定も含む）

年度		平成28年度		平成29年度	
校種	派遣対象	校数(校)	人数(人)	校数(校)	人数(人)
小学校	体育授業	68	75	58	61
中学校	保健体育科授業	7	10	11	20
	運動部活動	16	27	11	23
高等学校	運動部活動	23	42	24	46

※人数は延べ数

4 成果と課題

【成果】

(体育・保健体育科授業)

- ・ 武道・ダンスや課題がみられる領域の授業において、地域のスポーツ人材を活用することで、安全面における指導体制の整備や質の高い授業の実践及び教員の指導力向上につながった。

(運動部活動)

- ・ 運動部活動において、地域のスポーツ人材を活用することで、生徒の多様化するニーズへの対応や部活動顧問の指導力向上及び負担軽減につながった。
- ・ スポーツ医・科学的知見を有するトレーナー等を活用することで、スポーツ障害の予防やより効率・効果的な練習方法への改善がみられた。

【課題】

(体育・保健体育科授業)

- ・ 地域のスポーツ指導者との派遣日程の調整、授業における地域のスポーツ指導者と教員の役割の明確化について課題がみられ、事前の打ち合わせ等の時間の確保が必要である。

(運動部活動)

- ・ 各学校から実施状況以上の要請があるが、旅費等の経費面から十分な対応ができていない。
- ・ 科学的トレーニングを積極的に導入し、適切な休養を取りながら、短時間で効果が得られる活動の実施が求められており、研修会の開催等、その推進が必要である。



地域の指導者から、相撲の基本動作の指導を受ける。
(中学校保健体育科授業)



地域の指導者から、現代的なリズムのダンスの指導を受ける。
(中学校保健体育科授業)



地域の指導者から、専門的技術指導を受ける。
(高等学校部活動)



栄養士から、栄養指導を受ける。
(高等学校部活動)

(健康福祉部 こども政策課)

1 趣旨

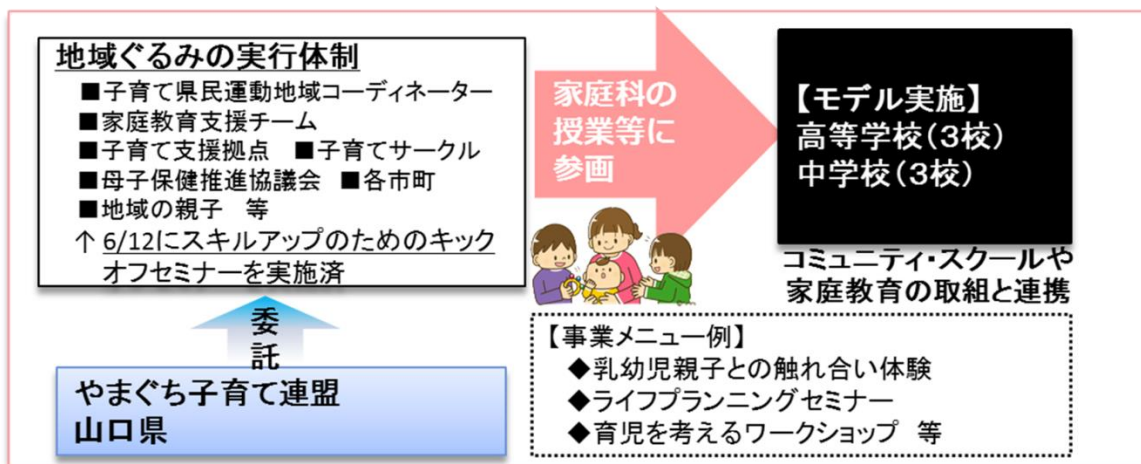
「子育て県民運動」とは、社会全体で子育てを支える環境づくりをめざすものであり、「やまぐち子育て連盟」（キャプテン：村岡知事）を推進母体とし、その調整役である「子育て県民運動地域コーディネーター」を中心に、県下各地域において、子育て支援イベントやセミナーの開催など、自主的・主体的な実践活動を展開しています。

また、これまでの子育て支援活動のネットワークを生かし、乳幼児とのふれあい体験など、学校を舞台とした子育て体験交流活動を推進しています。

2 平成29年度の学校・家庭・地域と連携した取組例
～未来のパパ・ママ！子育て体験交流事業の実施～

核家族化や地域のつながりの希薄化等により、若い世代は結婚や子育てを具体的にイメージすることが困難な環境にあります。

このため、未来を担う若者に向けて、家庭や子どもを持つことの楽しさや素晴らしさを身近に感じる機会を創出するため、コミュニティ・スクールの取組とも連携し、中学校や高等学校を舞台に乳幼児親子との触れ合い体験やライフプランニングセミナーを県下6校でモデル実施しました。



[モデル校の概要]

【高等学校】

■大津緑洋高等学校（長門市）

育休中の教員の講話や乳幼児親子との触れ合い体験を実施

○日 時：平成29年9月14日（木）

○実施主体：家庭教育支援チームふあみ

○内 容

家庭科の時間を活用し、育休中の教員からの子育て体験談やワークライフバランスについての講話のほか、乳幼児親子との触れ合い体験を実施



■長府高等学校（下関市）

子育て支援センターを中心に、乳幼児親子との触れ合い体験を実施

○日 時：平成29年9月26日（火）、11月28日（火）

○実施主体：子育て支援センター「つくしんぼの会」

○内 容

家庭科の時間を活用し、高校生と乳幼児親子との触れ合い体験を2回実施



■山口農業高等学校（山口市）

学校の農業施設を生かした触れ合いやライフプラン授業を実施

- 日 時：平成 29 年 10 月 10 日（火）、10 月 30 日（月）ほか
- 実施主体：NPO 法人あっと
- 内 容

家庭科の時間を活用し、学校内の農業施設も活用した乳幼児親子との触れ合い体験や生徒が将来を考えるきっかけとするライフプランニングセミナーを実施



【中学校】

■住吉中学校（周南市）

乳幼児親子との触れ合いと絵本づくりワークショップを実施

- 日 時：平成 29 年 9 月 25 日（月）、9 月 28 日（木）、11 月 1 日（水）
- 実施主体：周南地域子育て支援ネットワーク「虹色ねっと」
- 内 容

家庭科の時間を活用し、イラストレーターによる絵本づくりワークショップに加え、乳幼児親子との触れ合い体験を 2 回実施



■神原中学校（宇部市）

乳幼児親子との触れ合い&赤ちゃんの発達を学ぶ授業を実施

- 日 時：平成 29 年 9 月 27 日（水）、10 月 4 日（水）、12 月 6 日（水）
- 実施主体：USOM 地域コーディネーター連絡会
- 内 容

家庭科の時間を活用し、大学との連携による育児を学ぶワークショップに加え、乳幼児親子との触れ合い体験を 2 回実施



■高森みどり中学校（岩国市）

乳幼児親子との触れ合い&離乳食づくりを実施

- 日 時：平成 29 年 11 月 7 日（火）
- 実施主体：岩国地域コーディネーター連絡会
- 内 容

家庭科の時間を活用し、離乳食とおやつづくりや乳幼児親子との触れ合い体験を実施



【モデル事業のアンケート結果（抜粋）】

区 分	感 想
生徒	<ul style="list-style-type: none"> ○赤ちゃんと関わると、なぜか笑顔になって、午後からの授業も頑張れる。 ○自分も赤ちゃんのとき、こんな風にかわいがられてたのかと親の愛を再認識した。 ○最初は緊張したけど、だんだん打ち解けてきて、赤ちゃんにすごく癒された。 ○かわいくて、小さな命を感じた。
子育て家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○普段一番遠い存在である中学生（高校生）と接することができ、私も子どもも良い刺激になった。 ○中学生、お年寄りとも交流でき、親同士だけのサークルとは違う交流ができた。 ○子育ての楽しさや苦勞を生徒に伝えることが、社会貢献になるとは思わなかった。 ○ボランティアのスタッフが見守ってくれて、安心して参加できた。 ○学校は駐車場も広いし、便利な場所にあるので参加しやすかった。
学校	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニティ・スクールや家庭教育支援の充実に繋がった。 ○体験型の学習により家庭科授業の充実が図られた。 ○生徒にとって、親の役割や家族について、体験を通じて考えることのできる時間になっている。 ○母親（異世代）との会話も進み、コミュニケーション能力の向上に繋がっている。 ○乳幼児と触れ合うことで、自己肯定感の醸成につながっている。



3 今後の展開

モデル事業の成果と課題を踏まえ、定期的・継続的な「学校内子育てひろば」の開設に繋がるよう、教育と福祉が連携した取組を更に強化していきます。

6 老人クラブとの連携による取組の推進 (シニア活躍！ねんりんパワー応援事業)

(健康福祉部 長寿社会課)

趣旨

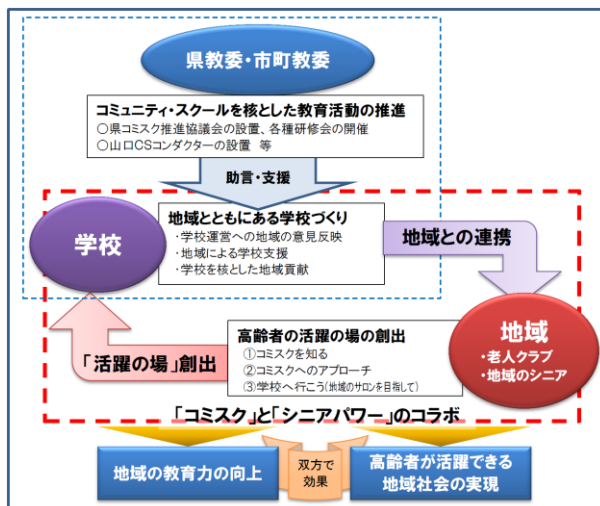
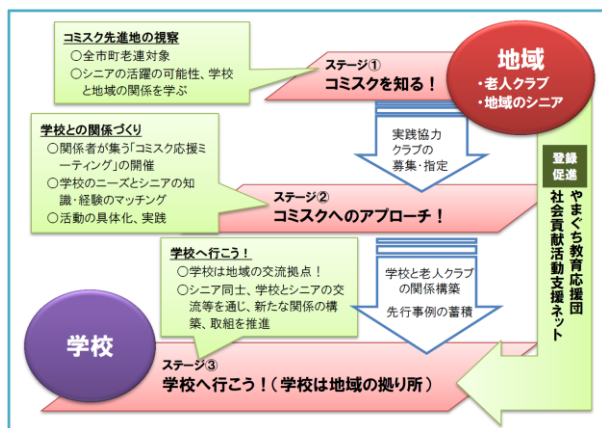
平成 27 年 10 月に行われた「ねんりんピックやまぐち大会」を契機とする、高齢者のスポーツ・文化活動への関心や社会参加意識の高まりを継承・発展させるため、老人クラブによるコミュニティ・スクールへの参画を推進する。高齢者の豊かな知識や経験を活かしながら、地域の教育力の向上を図るとともに、コミスクの取組の中で高齢者の活躍の場を創出することにより、高齢者が活躍できる地域社会の実現を図る。

▼老人クラブとコミュニティ・スクールの連携による3つの効果への期待

- 地域の拠り所としての「学校」 → ①高齢者の社会参加の促進
- 高齢者の知識・経験を活かせる場としての「学校」 → ②高齢者の社会貢献活動の推進 ③世代間交流の推進

1 事業スキーム

地域の高齢者が、老人クラブを核として、地域の教育力の担い手として総合学習や学校支援などに積極的に参画することにより、「地域の教育力の向上」と「高齢者が活躍できる地域社会の実現」の双方で効果をめざす。



2 事業展開

まず、老人クラブ幹部のコミュニティ・スクールへの理解を深めることから着手。各地域では、学校からのニーズを把握しながら、活動の方向性を具体化。

コミュニティ・スクールへの参画により、高齢者の活躍の場を創出するとともに、その活動の成果を生かすため、「社会貢献活動支援ネット」や「やまぐち教育応援団」への登録を通じ、地域の教育力としてのシニアパワーの売り込みと需要拡大につなげる。

3 具体的な取組

▼平成28年度

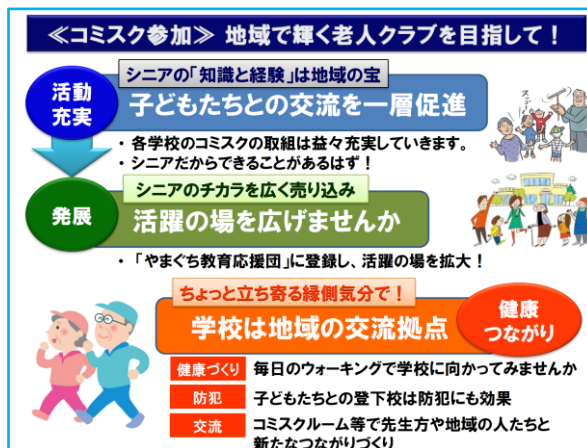
テーマ1 コミュニティ・スクールを知る！

県老人クラブ連合会及び各市町老人クラブ連合会の役員がコミュニティ・スクールの取組を視察。

- ①周南市立岐山小学校
- ②山口市立鑄銭司小学校

テーマ2 コミュニティ・スクールにかかわる！

下記4市6クラブを先行的に取り組みモデルクラブとして指定し、老人クラブとしてのコミュニティ・スクールへのかかわり方を県内の他クラブへ示す。



	市町名	クラブ名	対象校	主な取組
1	防府市	岩島悠交会、上木部老人クラブ	牟礼小	<ul style="list-style-type: none"> ・授業支援（農業、文化体験活動、地域の歴史、昔話、自習サポート） ・昔遊び、ゲートボール指導 ・家庭教育支援（しつけに関して） ・学校環境整備（池の鯉復活） ・通学合宿、昔の暮らし体験 ・登下校の見守り活動 ・大人の学び
2	下松市	久保地区老人クラブ連合会	久保小	
3	下松市	花岡友愛クラブ、南花岡老人クラブ	花岡小	
4	光市	周防地区老人クラブ連合会	周防小	
5	周南市	旭壽会、のんた会、白寿会、梅園長生会、舞車長寿会	徳山小	
6	周南市	桜木地区老人クラブ連合会	周陽中	

4 事業実施初年度の取組成果

平成 29 年 3 月、全市町の老人クラブ連合会の幹部が集まり、モデルクラブの活動報告会を実施。報告会后、複数の老人クラブから次年度のモデル指定応募の意思表示があるなど、取組拡大への一定の効果が現れ、高齢者が活躍できる地域社会の実現に向けて、コミュニティ・スクールを通じ、地域の教育力として高齢者の活躍の場を拡大していく。

5 さらに取組拡大に向けて

▼平成29年度

テーマ コミュニティ・スクールを通じ老人クラブ活動を活性化させる！

県教委のコミュニティ・スクールの取組に積極的にかかわっていくことで、高齢者が活躍できる地域社会の実現に向けて、欠かせない取組として定着させ、老人クラブ活動の活性化につなげていく。

このため、28年度に引き続きモデルクラブを募集し、下記 3 市町 4 クラブを指定。

	市町名	クラブ名	対象校	主な取組
1	岩国市	波野白峯会(本郷町)	本郷小	<ul style="list-style-type: none"> ・地域文化伝承活動、エコ活動、食育等(旧校舎を活用したイベント実施)、 ・エコ活動、昔遊び、地域文化伝承活動 ・津波、地震難訓練、算数補充教育支援 ・昔遊び、昔暮らし、教科指導支援(そろばん、百人一首等)、幼保合同交流会 ・校区内の他老人クラブとの新たな連携 ・学校の統合に伴う、他地区老人クラブとの新たな関係構築
2	周防大島町	大島老人クラブ連合会	大島中 三浦小 沖浦小 明新小	
3	周南市	富岡地区老人クラブ連合会	菊川小	
4	周南市	須々万みどり連合会	沼城小	

▼事業実施 2 年目にめざした方向

○地域で存在感のある老人クラブをめざして

老人クラブとして、コミュニティ・スクールに積極的に参画し、クラブ活動を活性化させ、地域での存在感を一層創出。

○老人クラブ間の新たな連携構築に向けて

同一校区内でありながら、これまで希薄だった近隣クラブ同士の関係を、コミュニティ・スクールでの活動を通じて、新たな連携として構築。コミュニティ・スクールから生まれる地域コミュニティ活性化の可能性を秘めた取組として期待。

○会員増強に向けて

県内の全ての公立小・中学校がコミュニティ・スクールとなった今、老人クラブ全てがコミュニティ・スクールに参画できる環境が整っており、子どもたちから元気がもらえる取組として、負担感を感じることなく、長く取り組めるものとなるよう「ゆるく、楽しい」好事例を蓄積させ、老人クラブの長年の課題である会員増加につなげていく。



大島老人クラブ連合会
(明新小学校/総合学習の様子)

(観光スポーツ文化部 スポーツ推進課)

1 総合型地域スポーツクラブとは

地域の学校や公共スポーツ施設を拠点に地域住民が主体となって運営され、子どもから大人まで（多世代）が、自己の年齢や、興味・関心、適性等（多種目・多志向）に応じて、「いつでも、どこでも、いつまでも」スポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、スポーツを支える活動に参画できるスポーツクラブです。

地域におけるスポーツ推進拠点として、地域スポーツ活動の充実や住民の健康・体力づくりはもとより、地域の一体感や活力の醸成、地域の活性化などの役割が期待されています。

2 育成及び活動状況（平成30年1月末現在）

- 育成状況 創設クラブ数57クラブ（19市町）
内訳（設立49クラブ、準備中8クラブ）

**3 クラブの創設育成を目的とした県の取組**

- 総合型クラブ設立加速化対策
 - ・県、市町、県体協、クラブ関係者による全県的なクラブ設立・育成に向けた支援体制の整備
 - ・学校との連携を目的とした市町担当者研修会の開催
- 総合型クラブ活動の充実・会員数増加対策
 - ・コーディネーターの主導の下、各クラブを運営面や指導面から支えることのできる「拠点クラブ」の育成を目的として、総合型クラブが連携した交流大会等の開催を支援 <平成29年度実績 県内4地域で開催し、1,300人が参加>

4 H29年度の学校と連携した主な活動 【連携したクラブ数：24クラブ】

- 学校行事にクラブが参加 9クラブ
- 運動部活動の代替 8クラブ
- 部活動への指導者の派遣 7クラブ
- クラブの行事に学校が参加 7クラブ
- 放課後子ども教室への指導者派遣等 6クラブ
- 授業への指導者派遣による学習支援 4クラブ
- その他 登下校の見守り、職場体験学習の受け入れ、学生が指導者として参加等

5 総合型クラブ設立の成果と今後の課題**【成果】**

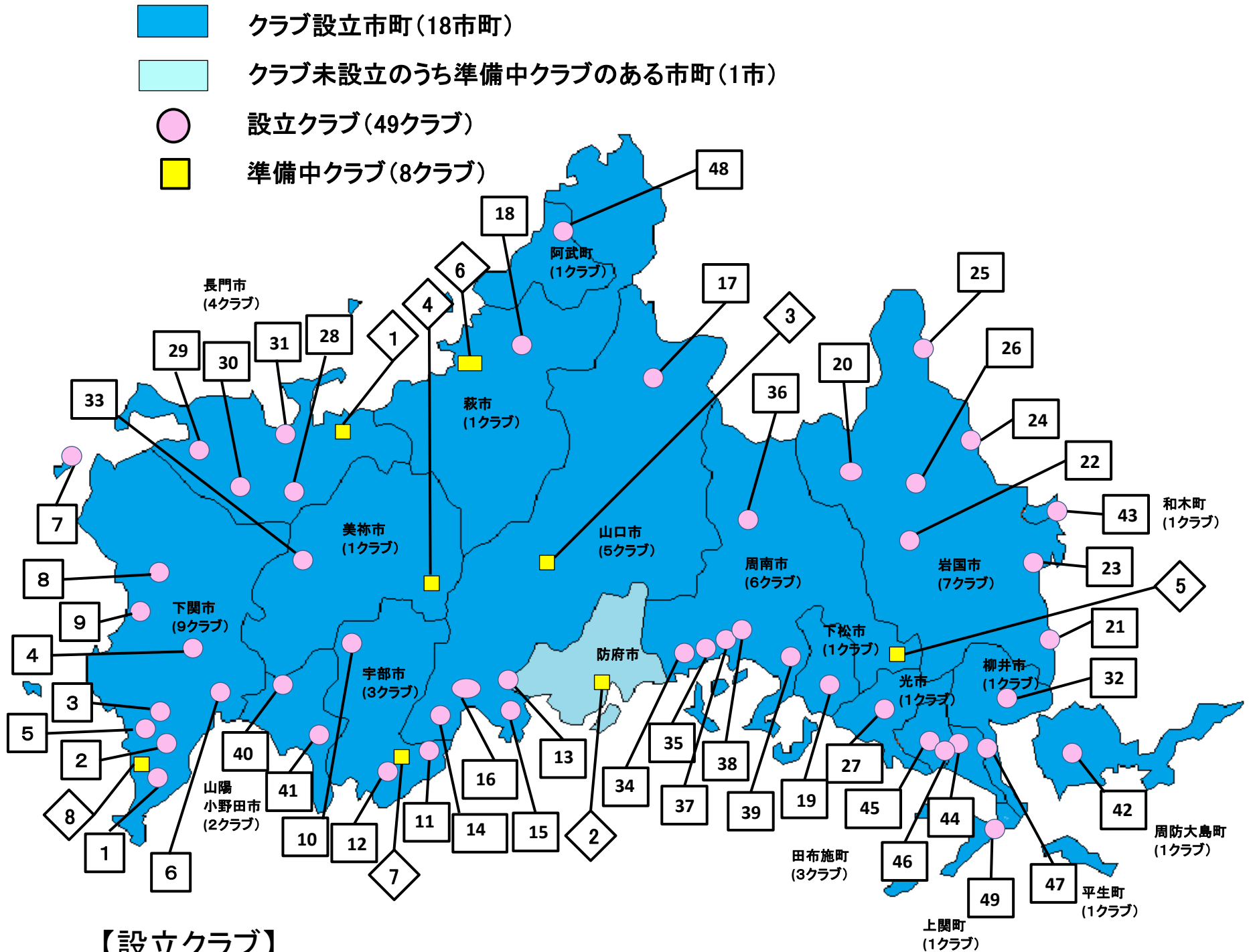
- 地域におけるスポーツ活動の充実（「住民の交流の活性化」「スポーツ参加機会の増加」等）
- 地域の活性化
- 地域で子どもたちの成長を見守る意識の向上

【課題】

- 地域住民の身近な生活圏を範域とした設立の加速化
- 地域の多様なニーズに対応した活動の充実と会員数の増加
- 総合型クラブと学校等が連携・協働した取組の促進
- 拠点としての役割を果たすことのできる自立した総合型クラブの育成

山口県総合型地域スポーツクラブ育成状況

平成30年1月末現在



【設立クラブ】

市町名	クラブ名
1	いきいき健康スポーツ教室
2	総合型地域スポーツクラブBLUE ROSE
3	コミュニティクラブ東亜
4	一般社団法人菊川スポーツクラブ
5	川中スポーツ振興会
6	王喜スポーツ・コミュニティクラブ
7	角島地区スポーツ育成クラブ
8	豊田中いなほ倶楽部
9	コムスポ夢が丘
10	NPO法人コミュニティスポーツくすのき
11	NPO法人Goppoええぞなクラブ
12	特定非営利活動法人おもしろファーム
13	鑄銭司蔵六コミュニティスポーツクラブ
14	佐山コミュニティスポーツクラブ
15	二島コミュニティクラブ
16	名田島コミュニティクラブ

市町名	クラブ名
17	山口市 コミュニティスポーツクラブあとう
18	萩市 むつみスポーツ振興会
19	下松市 くだまつ絆星スポーツクラブ
20	にしきエンジョイススポーツクラブ
21	特定非営利活動法人ゆうスポーツクラブ
22	KUGAスポーツクラブ
23	岩国市 IDBスポーツクラブ
24	美和スポーツクラブ
25	ほんごう維新クラブ
26	美川スポーツクラブ まめな会
27	光市 スポーツNPO法人ひかりクラブ
28	クラブネッツ大畑
29	長門市 いがみ倶楽部
30	俵山スポーツクラブ
31	長門スポーツクラブ
32	柳井市 SASスポーツクラブ

市町名	クラブ名
33	美祢市 むぎがわ元気クラブ
34	新南陽レクリエーション・スポーツ推進委員会
35	周南にこにこGUTS
36	周南市 鹿野スポーツ振興会
37	今宿スポーツクラブ
38	くめくめ倶楽部
39	榑浜スポーツクラブ
40	山陽小野田市 出合いちょうクラブ
41	すげえちや・高泊
42	周防大島町 NPO法人ココロとカラダ健究会
43	和木町 和木町総合型地域スポーツクラブ
44	田布施スポーツクラブ
45	田布施町 コミュニティスポーツ城南
46	田布施ふれあいスポーツクラブ
47	平生町 平生ゆうゆうクラブ
48	阿武町 宇田ふれあいクラブ
49	上関町 かみのせきんドリームズ

【準備中クラブ】

市町名	クラブ名
1	長門市 三隅コミュニティクラブ
4	美祢市 特定非営利法人ファミリーユススポーツクラブ
7	宇部市 白鳥健康教室

市町名	クラブ名
2	防府市 総合型スポーツクラブ防府設立準備委員会
5	周南市 ダンスうんどう山口
8	下関市 特定非営利活動法人セイザン下関スポーツクラブ

市町名	クラブ名
3	山口市 やまぐちジュニアアーチェリークラブ
6	萩市 至誠館クラブ設立準備委員会